

岩崎カナ

この度バンクーバー沖縄県友愛会へ派遣して頂き、私は主にダンスの指導をさせて頂きました。新年会では主にマミドーマとダイナミック琉球の踊りの指導をし、1世の方、2世の方両方と多く触れ合うことができました。バンクーバー沖縄県友愛会は主に1世の方々に構成されており、50代-70代の方を中心に構成されているような印象を受けました。お互いに意見を交換し合いながら活動を進めている様子がよく見えました。

現地で大きく課題に感じたことは、友愛会の活動への若者の参加が乏しいことです。これは私が3年間関わっていたロサンゼルス沖縄県人会でも同じ課題がありました。友愛会のメンバーにお話をお伺いしたところ、現在定期的な友愛会のイベントではなく、新しいメンバーが参加する機会というのがあまりないような印象を受けました。現在主となって活動されているメンバーは引き継ぎをしたいと考えている方もいるようですが、若い20代、30代の力が不足しているため、実質難しいとのことでした。最近少しづつ若い人向けのイベントの企画なども初めているようで、今度のダイナミック琉球では小学生-高校生の県系人も10人ほど参加してくれたので、彼らが友愛会の活動にこれからもっと参加してくれるとバンクーバーの沖縄コミュニティがさらに盛り上がるだろうなと思いました。

又、色々とお話をお伺いする中で、友愛会のメンバーが三線や琉球舞踊などの沖縄の文化・芸能を長期で指導してくれる人を欲しているということも分かってきました。現在友愛会では三線や舞踊の流派を受け継ぐ方がおらず、指導してくれる人がいれば定期的に集まって習いたいというお話をしておられました。その真意には、これから先子供達に沖縄の文化を継承していきたいという思いもあるようです。

私が今回の派遣を通して感じたことは主に上記の内容ですが、今現在1世の方が主として動いている活動を2世、そしてその先の世代が加わっていくと、より新しい発想を取り込んだ友愛会の形が生まれるのではないかと思います。やはりその為には若い世代の参加が必要であり、今回の新年会での取り組み、特にダイナミック琉球で集まってくれた子供達を中心に更に多くの若い人が集まり、老若男女問わずみんなで力を合わせて沖縄コミュニティを発展させていくことが理想だと考えます。

そして、この事業の主旨の一つである、「2021年のウチナンチュ大会で再会しましょう」という呼びかけにおいては昨年度、今年度と派遣先に選ばれた世界の県人会(ロサンゼルス、サンパウロ、シカゴ、オハイオ、バンクーバー)が派遣時に習った演目などで一緒に共演できるようなアクションがあればより世界のウチナンチュの結束力が高まると思いました。そのために、今後もこの文化芸能指導者派遣事業を続けていき、さらに多くの世界のウチナンチュを巻き込んでいく必要があると強く思います。この事業で派遣された者も受け入れ先の県人会もこの事業を経て、強い結びつきを得ることができます。それは昨年度、今年度と派遣された当事者の私が一番強く実感していることです。なので是非今後もこの事業が続いていくことを心から願っております。世界のウチナンチュは沖縄からの派遣者との交流を強く心待ちにしています。

今回は貴重な体験をさせて頂き誠にありがとうございました。

第3章 メディア掲載事例

現地県人会向けの激励動画の撮影（シカゴ）



世界のウチナーンチュの日をPR（オハイオ）



奥間会長へ派遣団より贈答品の手交セレモニー（バンクーバー）



3-1 新聞

1) 沖縄タイムス 2018年10月30日

沖縄タイムス 2018年(平成30年)10月30日



米で催し 県人会交流
「ウチナーンチュの日」

【クリッシー悦来園通 信員】10月30日の「世界のウチナーンチュの日」に合わせて、米オハイオ州沖縄友の会(シューン・マクベイ会長)は記念式典をコロンバス市内のキャピトル教会で開いた。写真。沖縄からは演出家の平田天一さんや、友の会と親交がある沖縄市の諸見里青年会エイサーのメンバーが特別出演し、会員や参加者を感じさせた。県人会の阿波連本流啓嗣和会メンバーは「かぎやで風」などを披露。友の会の子どもエイサーでは、会員の孫たちによるかわいいパレードや友の会「線グループ」による「豊年音頭」と話した。

2) 琉球新報 2018年11月12日

エイサー、琉舞で盛況
オハイオ友の会 沖縄の芸能団も



アメリカ
米国のオハイオ州沖縄友の会(シューン・マクベイ)

能派遣事業で派遣された芸能関係者も参加。会は大いに盛り上がり、幕を閉じた。マクベイ会長が開会あいさつをした後、デトロイト日本総領事と玉城二州知事の祝辞が読み上げられた。県が制作した「世界のウチナーンチュの日」のブローチや「世界のウチナーンチュの日」の限定の経緯を紹介した。阿波連本流啓嗣和会による「かぎやで風」で余興の幕が開けた。はつひに青い鉢巻きをした10人の子どもたちがパレードを片手に元気一杯にエイサーを演舞し、会場からは「かわいい」の音が響いていた。三線グループは「沖縄ウチナー」なごら曲を演奏。琉球祭の本鼓とフラグロフが沖縄からの参加者の知事の前で披露された。沖縄からのエイサー指導者と友の会諸見里エイサーのメンバーは、人のゲストも加わり、勇壮な演舞を披露し、観客を魅了した。会場全体を巻き込んだカチャーシーで締めくくった。マクベイ会長は「場の手配から県との打ち合わせなく、四カ月間の準備期間がなく大変だったが成功してホッと」と話した。(鈴木多美子通信員)

カチャーシーで催しを締めくくると参加者ら
=10月27日、米オハイオ州

会費は10月27日「世界のウチナーンチュの日」を祝うイベントを同州で開催した。沖縄県の沖縄文化芸



鈴木多美子

米各地にある県人会では琉舞、三線、エイサーなどが盛んに行われているが、その多くに指導者がいない。動画を見ながら練習しており、次世代への継承が難しいと悩みを抱えている。

「世界のウチナンチュの目」に伴い、県が指導者を派遣し交流を図る沖縄文化芸能派遣事業がオハイオ州県人会友の会で実施された。イベントに派遣され花を添え、芸能の粋を見せたのは演出家であり音楽家の平田大一さんと、諸見里青年会の花城悠さん(26)、砂川広平さん(26)、伊礼廉太さん(21)の4人。平田さんは、イベントを演出するとともに、横笛や太鼓を演奏した。地元オハイオ州のエイサーグループに、地元の子どもエイサーグループも参加させ、

沖縄芸能の指導者派遣

ユーモラスな楽しい振り付けを教えた。

ステージでの子どもたちの一生懸命な演舞に会場から大きな声援が送られていた。平田さんは「エイサーを通して文化継承の兆しを見ることができ、そのブリッジイベントは次につながる」と熱い思いを語っていた。

一方、諸見里青年会のエイサーを動画で見ながら練習してきた友の会エイサーグループにとっては、念願の直接指導を受けることができ、3人による指導の下で練習を重ねた。イベントでは、3曲続けて熱演し、切れのある力強い演技で会場を沸かせた。諸見里青年会のメンバーと共に友の会エイサーグループは、練習の成果を発揮していた。指導者の4人は、地元の高校と小学校でもエイサーなどを披露し、沖縄伝統芸能のアピールに一役買った。今後も沖縄文化芸能派遣事業が継続し、各県人会が琉球伝統芸能の素晴らしさを再認識できる機会になればと願う。

(バージニア通信員)

The Chicago Shimpo

THE CHICAGO SHIMPO www.chicagoshimp.com Friday, November 23, 2018

Okinawa Day in Chicago Showcasing Its Dynamic Arts & Spirit



Children team "Chau Soe Bai" performs "Sea Dynamic Ryukyu" at Worldwide Uchinanchu Day in Chicago on November 3.

"Worldwide Uchinanchu Day in Chicago" took place on November 3 at Glenview Park Center and showcased Okinawan music, dance, and martial arts.

Former Okinawa Governor Takeshi Onaga, who died last August, declared October 30th as "Worldwide Uchinanchu Festival" two years ago. The purpose is to connect Okinawan people in the world through Uchinanchu network and extend future generations as the first step to preserve and increase awareness of Okinawa's performing arts, martial arts, history, and spirit.

According to M.C. Linda Asoo, Chicago was one of the cities selected to receive special instructions from professional performers such as Daichi Iijima and Yoshiko Uezu. So the members of the Chicago Okinawa Kenjukai and their family and friends got together to practice performances for several months. Asoo said that the result exceeded their expectations.

"We are grateful to the government of Okinawa for this unique opportunity and for recognizing local."

See page 7 Okinawa Day

Avatar: Disruptive Technologies and the Future of Transportation

Instead of actually flying by airplane, remain in our own homes and "experience" visiting far-away locations - such a dream may become a reality in the future, thanks

「沖縄の日」ウチナーンチュ・デー

▶ 22面より

に思う」と述べた。

舞台は祝賀の歌で前じられる踊り「かぎやで風」で始まり、空手の型が披露された。平田大一氏の、夢は見るとはならず実現するものという強い思いとパフォーマーに託し、平田氏と子ども達のグループ「ちびとんとんエイサー・ダイナミック琉球」が文字通りダイナミックに前じられ、会場を熱めた人々の心に沖縄文化の熱気を伝えた。

後半は「上江洲明氏による「京太郎獅子舞」が演じられ、「京太郎獅子舞」で客席を圧射した。また、エイサーチー

ム全員で新しい形の「カヌチャー」が踊り広げられ、舞台の熱気はクライマックスに達した。

最後はパフォーマーと客席が

一体となり、カチャーシーを踊り舞を閉じた。



「エイサー・ダイナミック琉球」



ウチナーンチュ・デーの盛況は、全員で踊るカチャーシーで盛り上がった。



平田大一氏の「パフォーマー」

結伝：繋がる、伝えよう、島心

沖縄の日「ウチナーンチュ・デー」

沖縄のダイナミックな音楽や三線演奏、太鼓と共に踊るダンス、獅子舞、武道などを通して、沖縄の人々の心を伝える「ウチナーンチュ・デー」が11月3日、グレンビューにあるパーク・センターで開催された。

同「ウチナーンチュ・デー」は、今年8月に逝去した船長雄志前沖縄県知事が2016年の「第6回世界ウチナーンチュ大会」において、「10月30日を沖縄の日とする」という声明発表により実施されたもので、沖縄の心を沖縄のパフォーマーやアートや武道を通じて世界に発信しようという目的を持つ。また、世界に住む沖縄の人々を繋ぐウチナーンチュネットワークで沖縄芸能、武道、歴史、精神を次世代や沖縄の心を持つ人達に伝えようとするもの。

今年はシカゴが開催地の一つに選ばれ、沖縄から平田大一人氏（世界ウチナーンチュ大会記念イベントの総合コーディネーター及び演出指導）と、上江洲安秀氏（龍神伝説所蔵）が訪れ、パフォーマーの指導に当たった。

司会を務めたリンドア・安里氏は「貴重な沖縄文化遺産を語り、若い世代に伝える機会を得

たことを非常に嬉しく思う」と語る。

同会にはデニー・玉城・沖縄県知事代理の山城貴子氏、伊藤直樹・在シカゴ総領事、吉池学・シカゴ日本人会会長、三谷哲郎 JCCC 事務局長、鳥袋克双葉会補員校長らが出席した。

山城氏は、「昨年は海外12カ所で「ウチナーンチュの日」を祝うイベントが開催された。シカゴの日本祭りでも多くの観客を演藝で魅了したことは、シカゴ県人会の半世紀を超える歴史の中で誇りに培ってきたウチナーンチュの精神とネットワークの賜であり、誇りと敬意を表すると共に、誇り



沖縄を代表する島の声と語り

くちら寿司では食文化だけでなく、日本文化そのものを日本の外へ広げて行きたいという目的があり、日本人ではないくちら寿司スタッフでも「いらっしゃいませ」とお客様に声を掛けるのも、その現れだろう。

ビックラボンの商品は、米国独自のオリジナル製品を製

（21面へ続く）

流れてくる寿司の歌



醤油、味噌、豚骨ラーメンもある

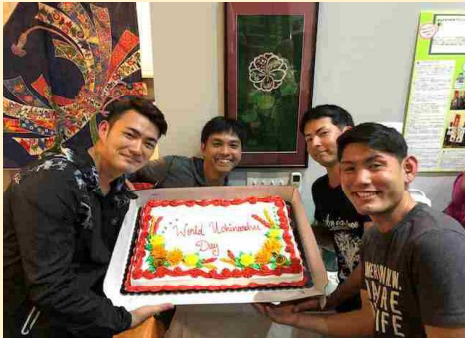


立ち上がる獅子舞

（21面へ続く）

第4章 関連資料

世界のウチナンチュの目を記念した
手作りケーキ (オハイオ)



世界に雄飛する三線文化を
記念してサイン (シカゴ)



移民劇「メンソーレワールドウチナンチュ」の
チラシをコラージュしたボード (バンクーバー)



4-1 制作物

1) 旅のしおり



2) 舞踊に使う小道具



今回の派遣事業のプログラム、マミドーマ用に製作された現地県人会による小道具の数々。新たな演目が引き続き演じ続けられていくためには主体的な取り組みは大切

3) 舞台衣装不足と聞き平田氏よりバンクーバー沖縄県友愛会に着物を5枚進呈



4-2 掲示物・配布物



会場受付も笑顔でハイサイ！ハイタイ！
(オハイオ)



手作りの指導者紹介ボードも製作
(オハイオ)



シカゴ沖縄県人会のフラッグがお出迎え
(シカゴ)



参加者に配布されたパンフレットと記念グッズ
(シカゴ)



ウチナーンチュの日PRバナーを掲示
(バンクーバー)



バナー掲示後、セッティングされた会場
(バンクーバー)

